

教育は今

No.5

「生きる力」～未来を拓く・創る・生きる～

周りの人や社会と関わりながら、自分づくりを進めていくことは、人間として極めて大切なことです。

人は、このような過程で自分の価値や役割に気付き、自分を知り、存在感を確立していくことになるからです。

何が起るのか分からない複雑な難しい時代を担う子どもたちにとって、社会で新しい未知の課題に試行錯誤しながら自立的に生きるためには、「人間の全人的な力」や「生きる知恵」がこれまで以上に必要となってきます。

「生きる力」とは

今の日本では、同質志向や横並び意識が根強く残っているものの、近年、人々は、多様な価値観に基づく自己実現や心の豊かさを求めるようになってきています。

一方、我が国の社会は、急速な変化に直面し、先行き不透明な厳しい時代を迎え、社会の変化に柔軟に対応できる個性的な人材や創造的な人材の育成が求められています。

このような背景から文部科学省は、知・徳・体の基礎的・基本的な資質・能力を総合して、生きて働く知性と実践力を意味する「生きる力」の育成を、引き続き新しい学習指導要領に、中核的な理念として位置付けています。

21世紀は「知識基盤社会」の時代ともいわれ、学校はもとより、家庭・地域社会など、社会全体で次代を担う子どもたちに「生きる力」をはぐくんでいかなければなりません。

「生きる力」の資質・能力は、次のように定義されています。

自分で課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する能力
自らを律しつつ、他人と協調し、他人を思いやる心や感動するなど、豊かな人間性たくましく生きるための健康と体力

「生きる力」と学校教育

何よりも、各教科において、基礎的・基本的な知識・技能をしっかりと習得させるとともに、観察・実験やレポート作成、論述といった知識を活用する学習活動を充実させる必要があります。こうして思考力・判断力・表現力等を教育活動全体ではぐくんでいくことが求められます。

「生きる力」と

家庭・地域

親子のふれあい、地域の人々との交流など、生活体験や自然体験の機会を充実させ、社会の知恵や社会のルールを学ばせていくことが大切です。

他者、社会、自然、環境と共に生きているという実感や達成感を味わわせたいものです。

特色ある学校づくり



市内小中学校の「特色ある活動」風景をご紹介します。
今回は、室積小学校と山口大学附属光小学校です。お楽しみに！

光井小学校

児童数482人



「平和を考える会」とおして、平和と命の尊さを学んでいます。

三輪小学校

児童数98人



毎年12月に「輪飾り集会」で、地域のお年寄りの指導を受け、正月用の輪飾りを作ります。